

# 會報

平成10年7月15日 発行

第 38 号

関東地区整形外科勤務医会

発行所：〒359-0042 埼玉県所沢市並木4-1  
国立身体障害者リハビリテーションセンター病院内  
関東地区整形外科勤務医会  
☎ (042) 995-3100  
FAX (042) 995-3102  
事務局：代表 関 寛 之  
編集：会報編集委員会

## 巻頭言

### 組織率向上へのモチベーションは？

国立栃木病院整形外科医長 白石 建

私が国立栃木病院に医長として赴任してからそろそろ4年が経とうとしている。振り返ってみれば、当初は医長という立場が初めてであったこともあり、まず病院の中で整形外科の評価を高めること、そして将来の見通しが決して明るいとは言えない国立病院という職場の中で、私と一緒に働く年下の医師達の motivation を低下させることなく、彼らがやりがいをもって毎日の診療に当たることができるように自分なりに腐心してきた。国の経済政策の枠組みの中で決められてしまうであろう国立病院の運命など思い悩んでもしかたないと思いつつ、何とか地域基幹病院の整形外科の役目は果たしてこれだと思う。しかし、指導者として、私が接してきた若い医師達にも伝わるような整形外科勤務医としての motivation を自分自身が本当に保ち続けてきたかどうかと自問すると、答えは否である。むしろ年ごとにそれが困難になって行くようにすら感じられる。先日隣の病院の副院長からお聞きした話であるが、ある期間のその病院の売り上げから、材料費、人件費などすべての経費を差し引いた純利益を計算したところ、整形外科は赤字であったとのこと。また、病院の総収入の約三分の一が外来の収入であったとのこと。保険点数が整形外科に不利にできていることは承知していたが、自分の職場では各科の毎月の売り上げが出されるだけである。私自身もその病院で非常に忙しく働いたことがあるため、副院長のお話からその不利さをよりいっそう切実に感じた次第である。さらに、入院患者の検査、手術といった専門技術と人手がかかる部門に対する評価が外来診療に比べ不当に低いことも我々病院勤務医の motivation をそぐ大きな要因であることも実感された。整形外科勤務医会の果たすべき役割は保険点数の改正だけではない。村瀬会長が第35号の会報であげられた項目はそれぞれに重要であると思う。しかし、人があ

## 主要目次

1. 巻頭言 ..... 組織率向上へのモチベーションは？ ..... 白石 建 ..... 1
2. 第26回日整会認定教育研修会講演要旨 ..... 2
3. 勤務医会ニュース ..... 4  
日整会評議員提案議題、平成9年度事業報告と決算報告、平成10年度事業計画と予算、  
教育研修会の運営について、会員数と会費納入状況
4. 会員の移動 ..... 6
5. 入会のご案内 ..... 7
6. 事務局日誌、編集後記 ..... 7

る問題に対して行動を起こすには、その問題はその人が直面している切実ものでなければならない。医長になる前は一つの病院に長く勤務することもなく、病院の経営に危機感を持って参加することなどなかった。このような医長が私と同世代の医長の平均的な姿ではないかと思う。勤務医会が、医療事情の様々な問題の中のひとつでもよいから、しかし、そのひとつを切実に感じ始めたこのような若い医長や若い指導医達が、その実感を持ち寄り共感できる場となれば、会の存在を身近に感じることができ、それによって組織率のいっそう高い会に発展するものと考えている。

## 第 2 6 回 日 整 会 認 定 教 育 研 修 会

平成10年6月13日(土)に住友化学参宮寮の会議室で幹事会、総会に引き続いて開催された。通例に従って2単位の研修講演を計画したが一題目の慶友整形外科病院副院長の伊藤 恵康先生の「肘関節のスポーツ障害」は講師のご病気のため急遽、伊藤先生からご推挙いただいた同じ研究グループの慶応大学整形外科の高山 真一郎先生による代講ということになった。野球肘と呼ばれる投球障害でよくみられる上腕骨小頭離断性骨軟骨炎、内側側副靭帯損傷、内側上顆の骨端線離開、肘頭の骨端線離開や疲労骨折、これらに続発する変形性肘関節症について治療も含めて解説していただいた。

二題目は東京医科歯科大学整形外科教授、四宮 謙一先生による「椎間板ヘルニアの最近の話題」で頸椎ヘルニアと腰椎ヘルニアは自然経過や病態に違いがあるが、その根拠を自験例の組織像や文献的考察からおしめしいただいた。

さて今回は2単位の研修を履修できるはずであったが、四宮先生の講演のみが日整会認定ということになった。伊藤先生の講演も認定がとれていたが、講師の変更を余儀なくされ、その旨日整会に問い合わせたが、教育研修会の日から4か月以内になってからはいかなる理由でも日整会認定教育講演とすることはできないということであった。そういう次第で高山先生の講演は日整会認定とならず会員の皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします、またそういう事情にもかかわらず40名の方々にご参加いただき感謝いたします。

## 肘 関 節 の ス ポ ー ツ 障 害

慶應義塾大学整形外科 高山 真一郎

特有なストレスの繰り返しの結果生じる組織・器官損傷は、“障害”と定義され、一回の強大な外力によって生じる“外傷”とは区別されている。肘関節の障害は剣道・弓道などの武道、やり投げなどの投擲競技、テニス・バドミントンなどのラケットを用いる様々な競技で生じるが、本邦においては野球による障害一特に投球障害が圧倒的多数を占める。

投球動作は、wind up cocking, acceleration, ball release, follow through の各 phase に分類されているが、内側の牽引、外側の圧迫、後内側の衝突がもっとも強力に発生するのは、肩関節が最大外旋となる直前、すなわち cocking phase の終わりである。三頭筋腱に最大の力が加わるのは acceleration phase, 肘頭関節面の過伸展 stress は follow through phase である。これらにより引き起こされる投球障害は、疼痛の部位から (1) 外側型：離断性骨軟骨炎（上腕骨骨軟骨障害）、いわゆる外側上顆炎

(2) 内側型：いわゆる内側上顆炎、内側側副靭帯損傷、内側上顆骨端離開 (3) 後方型：肘頭骨端離開・肘頭疲労骨折、加腕三頭筋腱炎 (4) 終末像：変形性肘関節症 のように分類することが妥当と考えられる。

少年期の野球肘の代名詞となっている離断性骨軟骨炎 (osteochondritis dissecans 略称OCD) は、繰り返される圧迫と剪断力の結果生じる上腕小頭に局限した無腐性壊死で、適切な予防・治療を行われなると変形性肘関節症に移行し、永続的な障害を残すことも少なくない。予防に勝る治療はなく、その発症時期である10代前半に対しては、適切な休養と無理のない投球フォームを指導することが極めて重要である。

内側側副靭帯損傷は、繰り返される外反ストレスによるもので、いわゆる外傷による靭帯断裂とは異なり、主たる問題点は疼痛であり、靭帯障害・靭帯炎とも表現される状態である。肘頭疲労骨折は比較的まれな障害だが、近年MRIの普及とともに診断が容易となってきている。また内側側副靭帯損傷と肘頭疲労骨折が合併することも少なくない。

変形性肘関節症は投球障害と終末像とも位置づけられ、プロ野球投手を対象とした調査では、肘頭と鉤状突起の骨棘形成が高率に見られた。特に肘頭と肘頭窩の骨棘形成は、伸展時の痙痛の原因となり手術を要する場合もあったが、多くの症例で復帰が可能であった。

これら肘関節のスポーツ障害はすべて過剰な投球動作に起因するといっても過言ではなく、われわれ整形外科医は適切な診断・治療によりスポーツへの復帰を可能とさせるのみならず、その予防のための指導に関わって行かねばならないことを強調したい。

## 椎間板ヘルニア最近の知見

東京医科歯科大学整形外科 四 宮 謙 一

### 要旨

最近腰椎椎間板ヘルニアにおいては、硬膜外へ脱出したタイプは消失することが広く認められてきた。しかし一方で頸椎椎間板ヘルニアは腰椎椎間板ヘルニアと自然経過、病態に違いがあることが指摘されている。頸椎椎間板ヘルニアでは正中に膨隆したタイプは消失することが少ないが、外側に膨隆したヘルニアあるいは椎体後面まで移動したヘルニア塊は減少、消失する。消失する機序は腰椎椎間板ヘルニアと同様で、非特異的な炎症反応によりマクロファージに貪食されるためとわかった。また正中型頸椎椎間板ヘルニアの消失不良の原因として、ヘルニア塊の中に終板軟骨がはがれて存在することが多く、この軟骨が吸収されずに残存することが大きな要因と考えられた。外側ヘルニアが原因で生じた神経根症、筋萎縮症は保存的治療ではほぼ改善するが、正中に膨隆した脊髄症に対しては時期を逸する事無く除圧術を考慮すべきである。

## 勤務医会ニュース

### 日本整形外科学会評議員会での提案議題

平成10年4月16日(木)に徳島にて開催されました。議事の要約は日本整形外科勤務医会会報20号に掲載されていますのでご参照下さい。

関東地区から提出された提案議題2題をニュースとして再録いたしました。この提案は勤務医会からみると、まだ日整会理事会には満足できる受け取りかたをされていると思えないので、2題とも再度角度を変えて提案するという方針です。

提案者 関東地区 秋山 典彦

#### [卒後研修と日整会認定医制度に ついての提案]

日整会の認定医制度の目的は、認定医の医療面での質的向上をはかるだけでなく、一定のレベルの医療を提供する指標を国民に示すことにある。この認定医制度の内容の充実には、卒後研修カリキュラムの充実が不可欠である。しかし、このカリキュラムの目的とする理念、研修内容、研修施設、研修内容の評価など具体的に検討しなければならない点が多く未解決である。

また、現行の認定医制度についても、リウマチ、スポーツ医学、リハビリテーションなど関連分野との関係など、将来の医療状況の変化に対応できるように検討する必要がある。

われわれ、勤務医会は、卒後研修と認定医制度の問題について、調査検討中です。この問題は、日整会としても重要であると考えます。理事会の提案として、会員全体で検討するためパネルディスカッションの様なかたちで学会としてとりあげてを提案します。

提案者 関東地区 関 寛之

#### 倫理委員会の拡充と常置委員会化について

ヒトを対象とする biomedical 研究に携わる医師のため勧告が世界医師会総会にて1964年ヘルシンキ宣言として承認されました。1975年に東京における世界医師会総会にてヘルシンキ宣言がより厳密化され、東京修正として発表されました。こ

れによればヒトを対象とした biomedical 研究は独立した審査委員会に倫理的配慮をもちこんだ実験計画書を提出して審査を受け、対象となる患者から書面によるインフォームドコンセントを得なければなりません。また学術雑誌はこの原則に従っていない研究の報告を出版の目的で受理すべきでないと明記されています。医薬品の臨床試験はこれに該当しますが、平成9年3月、厚生省薬務局長通知によりこの原則が厳密に適用されることになりました。近年、欧米の学術雑誌においては論文の掲載にあたって生命倫理の観点からも審査が行なわれ、論文の研究手法の項に明記されることになりました。

日本整形外科学会においても倫理委員会に法律家や学識者を交え、これを論文の審査を含めて生命倫理に関する事柄を評価する常置委員会として拡充されることを提案いたします。

### 平成10年度関東地区勤務医会総会

平成10年6月13日(土)住友化学参宮寮会議室にて開催された。議長に細谷俊彦先生(群馬)、副議長に亀ヶ谷真琴先生(千葉)が選出された。出席者と委任状の確認が行なわれ、出席24名、委任状157名、計181名で会員総数458名の10分の1の定足数に達するため総会の成立が議長より宣言された。議事に入り、事務局の平成9年度の事業報告および決算報告、河端正也監事の監査報告がされ、承認された。次いで平成10年度の事業計画および予算についても承認された。事業計画は平成9年度と変化はない。予算に関しては収入が9年度をうわまる会費収入が入ったので10万円増、広告費が9年度分が10年度に振り込まれ、10年度分は年度内の入金を確認したため15万円増で前期からの繰越を20万円程度減らしたが、収入全体としては5万円増の予算を組んだ。支出は総会研修会費のうち懇親会費用を共催の住友製薬と折半で負担することにしたので13万円減としたので、9年度会員名簿作成費が10年度にズレこんだ分の5万円増となった分を差し引いても支出全体では9年度より7万円減の予算を組んだ。この2年は繰越金を減らしてきたが、10年度は10万円余繰越金をふやせる予算が組めた。会員の皆様には会費納入をお願いいたします。

## 平成9年度事業報告

(平成9年3月1日～平成10年2月28日)

会報発行	3回(3月15日、7月15日、11月15日)
名簿発行	(2月26日)
総会	(6月7日)
幹事会	2回(6月7日、12月6日)
常任幹事会	5回(3月7日、5月16日、8月29日、11月18日、2月13日)
教育研修会	2回(第24回：6月7日、第25回：12月6日)
第24回	同愛記念病院 土屋 正光講師 東京慈恵会医科大学 柴崎 敏昭講師
第25回	都立駒込病院 近藤 泰児講師 神奈川リハビリテーション病院 春木 英一講師

## 平成9年度決算報告

(平成9年3月1日～平成10年2月28日)

【収入】	(予算)	(決算)
前期繰越し	745,642	745,642
会費納入	1,200,000	1,200,000
利子	5,000	1,357
研修会費	320,000	280,000
広告費	150,000	150,000
幹事会費	300,000	265,343
総計	2,720,642	2,734,342
【支出】	(予算)	(決算)
幹事会費	300,000	265,343
総会・研修会費	300,000	333,067
講師謝礼	300,000	300,000
会報	200,000	241,390
会員名簿	50,000	0
日本整形外科勤務医会費	600,000	646,890
慶弔費		32,025
通信費	100,000	158,090
事務人件費	120,000	120,000
雑費	50,000	77,818
小計	2,020,000	2,174,623
次期繰り越し	700,642	559,719
総計	2,720,642	2,734,342

## 平成10年度事業計画

(平成9年3月1日～平成10年2月28日)

会報発行	3回(3月15日、7月15日、11月15日)
名簿発行	(10月)
総会	(6月13日)
幹事会	2回(6月13日、12月5日)
常任幹事会	4回
評議員打ち合わせ	2回
教育研修会	2回(6月13日、12月5日)

## 平成10年度予算

(平成10年3月1日～平成11年2月28日)

### 【収入】

前期より繰越	559,719
会費収入	1,300,000
利子	1,500
研修会会費	320,000
広告費	300,000
幹事会費	300,000
総計	2,781,219

### 【支出】

幹事会費	300,000
総会・研修会費	200,000
講師謝礼	300,000
会報	200,000
会員名簿	100,000
日本整形外科勤務医会費	650,000
通信費	150,000
事務人件費	120,000
雑費	80,000
小計	2,100,000
次期繰越し	681,219
総計	2,781,219

## 教育研修会の運営を地区の持ち回りで行います

これまでの教育研修会の実績をみると講師はほとんどが東京、神奈川の病院や大学の方々です。講師や演題の選定は常任幹事会および幹事会でやってきましたが、どうしても会員数が多い、従って役員数も多い東京、神奈川から意見が多くでて、こういう結果になったと思われます。

そこで事務局より各地区の会員増や支部結成のステップの一つにというつもりもあって各地区の幹事が持ち回りで、できるだけその地区から講師を選んでいただくという提案をして幹事会および総会で了承されました。

北の方から順にということになり、平成10年12月5日は栃木県に担当していただくことにしました、ちなみにその次は群馬県と決まりましたが、その後は事務局の独善で暫定的に茨城、千葉、埼玉、山梨、東京、神奈川といった順番をつけさせていただきます。暫定順位ですので県同士の話し合いで適宜組み替えていただいかまいません。教育研修会に新鮮味が増すと期待しております。

## 会員数の推移と会費納入状況

喜ばしいことに会員数は最近4年間で年々増加しております。実際に事務局に登録や退会を申告された方をカウントしてみると、新入会が21名、退会は22名（うちご逝去4名）でした。平成9年から10年へは名簿上27名の増加ですが、日本整形外科勤務医会の名簿をいただいて、つきあわせてみたら関東に登録してなかった方が30名近くいたというのが真相でした。本当の会員増に向けてさらに働きかけたいと思います。

会費の納入額は予算よりは多かったのですが、平成9年度会費の納入率は60%で昨年とほぼ同じでした。平成9年度の決算をみると323人の納入がありました、これは平成9年度中に納入された会費全体で、遅れて納入された平成8年度会費や前払いの平成10年度会費も含んだものです。平成9年度会費として納入した会員は272名、60%であったということでもあります。会費は年度内に納入いただくようお願いいたします。

## 関東整形外科勤務医会会員数の推移

昭和59年	308人	
60年	322	
61年	330	
62年	322	
63年	342	
平成1年	349	
2年	329	
3年	358	
4年	365	埼玉県支部設立
5年	340	
6年	334	
7年	386	神奈川県支部設立
8年	422	
9年	431	
10年	458	98.7.1現在

## 都県別会員数と平成9年度会費納入状況

	会員数	納入数	納入率
東京	141名	70	50%
神奈川	130	88	68%
千葉	53	23	43%
埼玉	44	32	73%
茨城	38	28	74%
群馬	24	14	58%
栃木	15	9	60%
山梨	10	7	70%
他県	2	1	50%
計	457	272	60%

## 会員の移動

### 新入会員

三上 容司 横浜労災病院 整形外科  
〒222-0033 横浜市港北区小机町3211  
TEL 045-474-8111

馬見塚尚孝 日立総合病院 整形外科  
〒317-0077 茨城県日立市城南町2-1-1  
TEL 0294-23-1111

松村 崇史 大田原赤十字病院 整形外科  
〒324-0057 大田原市住吉町2-7-3  
TEL 0287-23-1122

塩島 和弘 深谷赤十字病院 整形外科  
〒366-0052 深谷市上柴町西5-8-1  
TEL 0485-75-1511

事務局日誌

- 4月16日 日整会評議員会（秋山、関評議員より提案議題を提出）  
日本整形外科勤務医会役員会  
4月17日 日本整形外科勤務医会総会  
6月5日 常任幹事会（出席者：秋山、石名田、泉田、岡井、河端、工藤、白石、関、立花、細谷、三笠、村瀬、山浦）  
6月13日 幹事会、総会に引き続き教育研修会  
7月10日 会報35号の原稿を印刷所に発送

退会者

神川 康也（千葉）	佐藤 信行（埼玉）
足立 秀（栃木）	中西 忠行（神奈川）
林 敬一（東京）	中村 雅也（東京）
吉田 恒丸（東京）	釜谷 邦夫（群馬）
中屋 愛作（神奈川）	丸山 隆生（神奈川）

入会申込書

平成 年 月 日

（フリガナ）  
御氏名 \_\_\_\_\_

生年月日（大正・昭和） 年 月 日 \_\_\_\_\_

現住所 〒 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_

勤務先名称 \_\_\_\_\_

勤務先住所 〒 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_

FAX \_\_\_\_\_

役職名 \_\_\_\_\_

出身大学 \_\_\_\_\_

卒業年度 \_\_\_\_\_

出身教室 \_\_\_\_\_

入会申込み送り先

〒359-0042 埼玉県所沢市並木4-1

国立身体障害者リハビリテーションセンター病院内

関東地区整形外科勤務医会事務局

関 寛 之

TEL 042-995-3100 FAX 042-995-3102

編集後記

巻頭言を各都県の常任幹事をお願いして掲載している。特に若手の役員に思っていることを忌憚なく述べていただければそれが勤務医会の進むべき方向を探索するしるべになるという考えである。今号は栃木の白石先生をお願いした。日頃、事務局から会員増や組織率の向上をお願いしているが、そのためには勤務医会の存在を身近に感じられるようなモチベーションをしめせないかという問いかけをいただいた、編集子も事務局を引き継ぐ前はそんな思いで勤務医会の末席を汚していたのでよくわかる。しかし、会の活動の中核に入って感じたのだが、勤務医会は会員になにか特典を与えてくれる会ではない。一勤務医としてモヤモヤと思っていたことを会の力を借りて発言できる場を与えてくれるところである。卒後研修、社会保険、生命倫理の問題など勤務医会からの意見だから日整会や関係機関が重く受けとめる、これまで勤務医は問題に気付きながらそれを言う機会をもてなかったのである。勤務医会はなにごともしるべで会員の意見をとりあげる柔軟性もち、実行力も備えてきた。「コリャーこうあるべきじゃないの」というご意見をお持ちの方は各地区の役員や事務局にどしどしご提案下さい、お待ちしております。

ホネ 10月8日は  
骨と関節の日

—骨と関節の健康を考えましょう—



社団法人 日本整形外科学会



住友製薬

# Didronel



骨代謝改善剤 エチドロン酸 ニナトリウム錠

特指要指

## ダイドロネル<sup>®</sup>錠200

薬価基準収載

■ 効能・効果 用法・用量 使用上の注意等は添付文書をご覧ください

製造発売元

資料請求先 住友製薬株式会社

〒541 大阪市中央区道修町2丁目2番8号

Trademark and product under license from Procter & Gamble Pharmaceuticals, Inc., U.S.A

住友製薬

# ボーンセラム<sup>®</sup>P

骨補填材

BONECERAM-P

承認番号62日第1201号

バイオフィUNCTIONALな機能設計に基づいて  
製造されたハイドロオキシアパタイトです。

■ 特徴

1. 骨動態学的特性を有しています。
2. 生体適合性が優れています。
3. 生物学的安全性が認められています。
4. 力学的強度が優れています。
5. 臨床的有用性が認められています。

■ 性能、使用目的、効能または効果

骨または関節手術における骨補填。

■ 使用上の注意

1. 本品使用の際は、無菌的に取り扱うこと。
2. 本品は滅菌済包装してあるので、手術直前に開封し、すみやかに使用すること。
3. 開封したものは再使用しないこと。
4. 本品は、できるだけ清潔な場所で保管すること。
5. 高度の荷重がかかる関節面の面下などにおける本品の単独使用は避けること。

■ 使用方法

採骨部位または骨欠損部位に、予め生理食塩液に浸漬した成形加工品または顆粒を、充填又は構築する。

製造元

住友セメント株式会社

東京都千代田区神田奥土代町1番地

販売元

住友製薬株式会社

大阪市中央区道修町2丁目2番8号

連絡先 住友製薬株式会社 診断薬機器部

〒541 大阪市中央区伏見町2丁目1番1号 TEL.(06) 229-5649

〒101 東京都千代田区神田駿河台3丁目11番地 TEL.(03)5280-5643

〒980 仙台市青葉区中央4丁目6番1号 TEL.(022)261-2651

〒450 名古屋市中村区那古野1丁目47番1号 TEL.(052)562-2855

〒812 福岡市博多区博多駅前1丁目2番5号 TEL.(092)431-6671